

「豊かな学力の育成」

—授業を核に、ともに楽しく深く考える子どもをめざして—

I 主題設定の理由

過去3年間の研究の積み上げの中で、子どもたちが意欲的に学ぶには、まず教師が力量をつけよう、そして子どもたちの学びを充実させていくために、自身の授業を客観的に見つめ改善していこう、という気持ちを意識することができた。この意識は継続して持ち続けながら、今度は子ども側から眺めた時、「わかった、できたという数値が高い割には、学習の楽しさを感じていない」という実態もアンケート調査の結果から読み取ることができた。また、子どもたちの思考の過程で、友だちと考えを交流させることが、やる気につながっていくことも学習感想の中から読み取ることができた。「わかった」「覚えた」「できた」という自分で体得した学びが、友だちとのかかわりの中で、より確かなものになったり、新たな疑問や問いを呼び起こしたりして、より深い学びへと発展する。

————— このような学びの場면을授業の中に作り上げることが重要だと考え、研究仮説を

授業の中で「学びの共同化」の場면을効果的に仕組むことによって、個々の子どもの思考は深まり、新たな「問い」や「疑問」を持たせ、学ぶ意欲や楽しさを感じることができるだろう。

と設定した。

また、学びの共同化の中で友だちと考えを交流させるためには、自分の考えを様々な方法で表現することが必要だと考え、「自分流の表現」のできる子どもを育てたい、と願った。それが自己実現に通じる、と考えたからである。

II 具体的な研究内容と方法

(1) 学習感想アンケート調査の分析 (5月・1月)、各学級の児童の実態把握

(2) 理論研究—講師を招いての学習会

(3) 検証授業 (全体研究3本、ブロック研究3本)

ア.	6年	算数	「比べ方を考えよう」	(全)	授業者	岡村	太郎	教諭
イ.	2年	算数	「かけ算(1)」	(全)	授業者	保坂	恵	教諭
ウ.	3年	国語	「すがたをかえる大豆」	(全)	授業者	行田	玲子	教諭
エ.	5年	算数	「三角形面積の求め方」	(高)	授業者	岩間	裕二	教諭
オ.	4年	算数	「広さの表し方」	(中)	授業者	本宮	聡	教諭
カ.	1年	国語	「どうぶつの赤ちゃん」	(低)	授業者	小泉	昭美	教諭

*授業のふりかえりとして

- ・授業の中で問題意識を持たせるような適切な課題であったか。
- ・子どもたちは、自分なりの考えをもち、表現できたか。
- ・学び合いを仕組むことによって、意欲的に楽しく学習できたか。
- ・自己評価、他者評価は適切であったか。

の4点を研究の視点に据え、授業反省を行い、本時の目標に迫れたかを検証した。

(4) 実践授業一人一実践

全体研・ブロック研の授業者以外の全員がテーマに沿った授業を実践し、お互いに授業を公開し、感想や意見を伝える参観計画を立てた。様々な共同化の工夫が個々の日常の実践に役立つようにするためと、授業を互いに公開し合い気づいた点を指摘し合うことで、より質の高い授業作りを目指したいと考えたからである。

III 成果と課題

「学びの共同化」に焦点を当てた研究の初年度であるが、子どもたちの学びの調査の中に、学習が好き・わかる・楽しい、の3項目とも肯定的に捉える子がわずかであるが増加してきたこと、またそれ以上に、記述回答の中にも、自分の考えが持てること、それを発表すること、友だちの考えと比較しながらさらに考えること、が楽しいという意見がみられ、研究の成果が表れてきたことが感じられた。特に、算数においては、課題解決の方法は一つではない、いろいろなやり方がある、絵でも図でも考えを示すことができるという安心感がもてたようで、課題に対して既習事項を生かしながら、前向きに取り組む子どもたちの姿を見取ることができるようになった。また、ほぼ全員が実践をしていき、その中のいくつかを参観する中で教師自身が共同化の工夫を学ぶことができたことは大きな成果である。

今年度の研究のまとめとして、「学びの共同化で目指す子ども像」の系統表を作成した。自力解決の場面では、「自分の考えが持てる子ども」、他者との関わり合いの場面では、「友だちと学び合える子ども」を目指し、低中高別に、どこまで高めることを目指すかが明確になるような一覧表である。

学びの共同化では、子どもたちから出された多様な考えを、教師がどのように取り上げ、どのように発展させまとめていくかが重要な部分になってくる。子どもたちの学びがより高まっていくのはこの部分である。子どもの学びに対する楽しさを感じさせ、新たな疑問や課題を持たせられるよう、さらに教師の力量を高めるための研究を続けていきたい。

(研究主任 堀内 玉恵)